

令和6年度 第1回

小国町総合教育会議

会議録

小国町

令和6年度第1回小国町総合教育会議 会議録

1. 召集年月日 令和6年8月23日(金)
1. 召集の場所 おぐに町民センター301号室
1. 開 会 午後1時30分
1. 閉 会 午後3時00分
1. 出席構成員
- |         |          |
|---------|----------|
| 小国町長    | 渡邊 誠次 君  |
| 小国町教育委員 | 木下 勇児 君  |
| 小国町教育委員 | 時松 比佐代 君 |
| 小国町教育委員 | 高村 さつき 君 |
| 小国町教育委員 | 石松 愛子 君  |
| 小国町教育長  | 村上 悦郎 君  |
1. 欠席構成員 な し
1. 傍 聴 者 な し
1. 説明のために出席した職員の職氏名
- |             |          |
|-------------|----------|
| 小国中学校長      | 真嶋 剛 君   |
| 小国小学校長      | 堺 昭博 君   |
| 総務課長        | 佐藤 則和 君  |
| 教育委員会事務局長   | 久野 由美 君  |
| 教育委員会事務局次長  | 後藤 栄二 君  |
| 教育委員会学校教育係長 | 中島 こず恵 君 |
| 教育委員会教育指導委員 | 荒木 完二 君  |
| 総務課審議員      | 松本 徳幸 君  |
| 総務課課総務係長    | 原山 慶士 君  |
1. 会議内容 別紙「令和6年度第1回小国町総合教育会議次第」のとおり

## 会議の経過及び顛末

### 1. 開 会

事務局：松本総務課審議員

### 2. 町長挨拶

構成員：渡邊町長より挨拶

### 3. 教育長挨拶

構成員：村上教育長より挨拶

### 4. 出席者紹介

別紙「令和6年度第1回小国町総合教育会議出席者名簿」のとおり

### 5. 協議事項

構成員：渡邊町長が小国町総合教育会議設置要綱により議長となり、議事を進行する。

1) 令和6年度「小国の教育改革プラン」について

2) 令和6年度の取り組みについて

村上教育長、真嶋小国中学校長、堺小国小学校長が資料により説明

## 構成委員の意見

### ○ 木下委員

タブレットが子どもたちに1人1台入ってきて、導入した当初はコロナ禍で家庭でのオンライン授業等を進めなければいけないということで、当時は大変だったという記憶があります。今年の夏休みそういうものを定期的に利用するのかなと思いました。例えば子どもの様子をタブレットで10日に1回又は2週間に1回確認できるのと併せて、家と学校を繋ぐというのを定期的にしていかないと子どもたちもどうしていいのか分からなくなるのではないかと感じました。どう考えられているかというのをお聞かせください。

次に、小学校について、校長先生が今年のこの会議で、読書活動については読む冊数が減ってきているので増やしていきたいというお話をされていましたが、現状どのような状況なのか分かればお知らせ頂ければと思います。

最後に、中学校の部活動の完全移行が令和8年というスケジュールで進めているということですが、それまでの期間、例えば大会に出場するのは、特に土日が多いと思いますが、そういう時の責任やどちらが引率していくとかの対応のすみ分けがどうなっていくのかというのを伺いできればと思います。

### ○ 堺校長先生

夏休み中のタブレット等の活用については、本年度は特にこれをしましようというような足並みは揃っていませんでした。

確かに言われてみればそうだなと思います。一方サマースクーリングで、どうしてもちょっと水泳が苦手な子どもについては、夏休み前半に学校に来てもらい、1時間から2時間の学習、それから、水泳指導あたりを行ったところです。しかし、タブレットがあるので、確かに足並みを揃えるのも必要だったのかなと思います。

2つ目の読書量については、昨年と比べて、今年の結果はまだ出ていませんが、昨年1年で言うと延べ数で2,000冊ぐらいは貸出し数が伸びています。ただ、問題は読書内容です。絵本はだめという訳ではありませんが、高学年の子が絵本や図鑑を借りてしまう子もいますので、読書の内容をしっかりと高めていかなければいけないと思っています。

また、今年の会議でご意見がありましたタブレットで読書という話ですが、現在県立図書館の電子図書館利用申請をしています。子どもたちのIDとパスワードがもうすぐ割り振られると思います。そのIDはおそらく子どもたちに配布したままとなりますので、持ち帰って自由にタブレットで読書ができる時代がもうすぐ来ますので、期待していただきたいと思っています。

### ○ 真嶋校長先生

小国中学校ですが、夏休み中持ち帰りはしておりますけど、今のタブレットでの集計も併せて、やはりコミュニケーションを含め状況の把握という点に関してはまだできていないと思いますので、ご意見のようなかたちでできればと思っています。

日常の中では、入院等で長く欠席をする子に関しては、タブレットを持たせて授業をそのまま配信するというようなかたちがとれています。欠席してもある程度授業での活用につながるの、とても効果的であると思っています。

また、読書ですが、図書委員長は先ほどの成果指標の中で、当初年間での目標であったのですが、細かく1か月で少し絞ったらいいのではないかという話になって1か月に3冊となりました。

7月は83%という数字になりましたので、子どもたちがやはり目標を持って取り組み、借りるだけかは分かりませんが、手元に本がある状況というのは、いいかなと思っています。それから、部活動に関してですが、全てが社会体育というかたち、地域クラブではできない状況にあります。

責任の所在は確かに心配されることもあります。平日は基本的に18時までが部活動で、18時以降が地域クラブというかたちになっておりますが、教員がいない状況で地域クラブの指導者に移行した場合は、責任の所在としては地域クラブとして動くこととなります。

それから、正式な大会は基本的に教員と一緒に付いていくのが原則的なかたちになりますので、そのような活動として怪我等があった場合は、スポーツ振興センターの適用ということになります。練習試合等で地域クラブの指導者のみで行ってもらう場合も結構ありますので、その場合は、あくまでも地域クラブとしての活動になります。その際、各地域クラブで加入してもらっている任意保険で対応するというので、一つの線引きにはなるのではと思っています。

## ○ 時松委員

先生方生徒さん方、一緒に目標を持って過ごしていることがよく分かって、本当にありがたいと思います。お疲れさまです。

そのような中での給食の話ですが、先週くらいに栄養価の面で、目標の栄養価になかなか達しなくて、給食の内容が5分の1ぐらいの栄養価になってしまっているという話がありました。そこで、その時期の旬の食べ物を一品だけでもいいから摂ることができないかと思いました。例えば人参ですが、私の実家がお店で、そこで販売していた人参を食べていたのですが、嫁に来て、小国でできた人参を食べたときに、香りと味が全然違っていたというのに最初、感動したことが印象的でした。その人参だけでも、旬のものを地元の野菜から取ることができないかと思うのですが、先生方だけではなく、運営の方としてでも仕入れの段階で難しいとは思いますが、その努力ができないかなと思っています。

それと、対話的で主体的の深い学びということで言われていましたが、読書というのも本当必要かと思っています。

私は北里柴三郎記念館でお客様に説明をするのですが、聞く力というのも聞く環境をつくるとか、聞くように自分を持っていく、そういう聞く力も大事じゃないかと思いました。自分で探求して学習をするなどの根本に聞く力も大事じゃないかと感じたところです。

最後にいじめに関してですが、これは小国であったことではございません。すご

くいい先生が来たということを保護者の方が話されていたのですが、ある男の子が給食当番をしていて、この食材僕は嫌いと言ったら、同じ給食当番の男の子が、嫌いと言ったものをすごく盛ってその子に渡したそうです。嫌いなものをてんこ盛りにされた子どもさんが嘔然としたところを先生が見つけ、いち早く何事もなかったように、少しに減らしてほかの食材も入れてその子に渡したという話でした。でも、それでその場は何事もなかったのですが、それはどうかと疑問に思いました。SOSを出す力も止められてしまったのではないとか、いじめとして、そのてんこ盛りにした子どもの気持ち、そこの背景、その辺の芽を積み取ってしまったというか、だから、いじめがあったときや保護者さんから何かいろんな苦情が言われたとき、それは逆にチャンスなのかもしれないと私はこの話を聞いて思ったわけです。

毎日いろんなことがあって大変だとは思いますが、このような受け止め方というのも少し感じました。

### ○ 久野局長

給食の件ですが、旬のものを地元のものを使えないかということでした。給食の食材はある程度まとまった量が必要ですから地元で揃わない場合もあります。仕入れ先に薬味野菜の里も入っており、数も確保できる場合は、地元の旬の野菜を仕入れ、使っているところです。努力していきたいと思えます。

### ○ 時松委員

同じ価格で同じ量であれば栄養価の高い地元の食材がいいと思えました。

### ○ 堺校長先生

聞く力ということでお話がありましたが、国語の授業の中では、実は「話す・聞く」というのは一つの領域になっています。「読む」と「書く」は別々の領域ですが、「話す」と「聞く」は一つの領域です。それはなぜかという、相手がいて、一方は話している、一方は聞くほうになりますので、当然表裏一体ですので、そのようになっているのかと思えます。

今子どもたちが人前で話す体験として、集会やボランティアに来ていただいた時のお礼で人前で話します。これらの話をするとき、原稿を書いて読む子が結構多くいます。

しかし本当はそうではなく、何を話すかという骨子をメモし、そのメモを見ながら話していくというのが本当だと思います。それができるようになると、逆に、聞く力も高まってくるというふうに思えます。実は全学調の結果を分析した時に話すという力の部分が弱いと感じました。

ですから一体的に、「聞く力」、「話す力」ということで取り組んでいきたいと、先日小学校では職員間で共通理解をしたところです。

それからいじめの話は、本当にいいチャンスを逃していると思えます。やはり何か問題行動や課題があったときこそが1番指導がきくところですので、そのような機会を逃さずにやっていきたいと思っておりますし、小学校では必ず週1回子どものことを語る会として、日常的な報告を行うなど全職員で共通理解をしています。

そこでよい対応も、失敗した内容も一緒に学んでいくことができるということです。ただ時間が限られており、たくさんはできませんが、今回いいお話をお聞きしましたので、今度話をしたいと思います。

### ○ 真嶋校長先生

先ほどのいじめの件はありがとうございました。

自分自身の生徒指導の経験、以前、生徒指導主事をしておりましたので、やはり目の前で起こっている事実にもまず「気づく力」が教員というのは必要になってくると思います。その中でやはりその場での声かけ、その場での指導をいかにできるかが、その後の学級崩壊等につながるかのポイントになるのかなと思っています。

その場で声をかけないと、結果的にその場はいいのですが、そこで結局、学べなかった子どもたちが次の問題行動等に発展してくることがあるので、職員には、言い方は強くても優しくても構わない、それぞれあるかもしれないけれど、気づいたときに必ずその場で声をかけて指導するということが、生徒指導でのいろいろな問題行動に関しては大事ということまで話をしています。

そのうえで学級担任の指導、そして、組織的な指導を行う。この生徒指導の基本的な原則として「その場の指導」、「担任指導」、「組織的指導」、これを3段階できちっとすることが大切であると考えます。

その場の指導がない状態で、後から生徒指導の先生からいきなり言われても、その場にいた先生の指導は入らなくなります。担任が入らなければ、担任の言うことは聞かない。だから優しくてもいいから、その場や担任、全体での指導が同じ方向を持って声をかける。子どもたちのために考えて声をかけたり、指導したりすることが伝わるようにしていく必要があるのかと思います。そのような場面で中学校でもしっかりと子ども達の様子を見ながら、指導していきたいと思っています。

### ○ 高村委員

去年のこの会議のときにタブレットで読書をしてはどうですかと発言しましたが、この話が先に進んでいるということでうれしく思います。本は絶対読んだほうがいいと思いますので、借りた後、読んだ後にどうするかだと思います。私は大嫌いだったので昔は読書感想文がありました。せっかくタブレットがあるので、クラスみんなにこの本を読んで何が面白かったのか、この本をおすすめする理由をプレゼンするなどをしてはどうかと思います。また、自分のノートに家庭学習として書くなど、一連の流れで書く力も向上するのかと思います。せっかく本を読むのであれば、それにプラスして、聞く力と書く力が一緒と言われていたもので、そこもできればいいのかと思います。

次に、中学校のフォーサイト手帳がすごく気に入ったのですが、これは手書きですか。

最後に、集会のときに表現活動の充実をするということで前に出るということがあると真嶋校長がおっしゃられていましたが、発言するのが苦手な子もいます。うちの子は、すごく前が出るのが苦手であったので、そういう子たちに対してはどのように対応されているのかというのが気になりました。無理やり話させて

嫌な体験で前に出られなくなるというよりも、何か成功体験というか小さなことでもいいので、タブレット上でも自分の表現をしてみんなに褒めてもらうなど、少しでもそういうことができる機会があればいいと思いました。

### ○ 堺校長先生

読書後の指導というところで、とてもいいアイデアをいただきました。というのが、例えばSNSは一つのトピックスに対していろんな人が投稿しますので、面白いのでみんな投稿します。ですから、感想をたくさん上げさせて、上げれば上げるほど、その掲示板というのが盛り上がっていきますので、いろいろなことができると思いました。

ただ読書感想文あたりも、今は生成AIが自動で感想文をつくる時代になっていますので、この技術を安易に使わないように6年生には言っています。

生成AIは便利ですがミスもあるので全てを素直に信じないよという話はしますが、活用する子も出てくると思いますので、そういうものも含めて感想の交流ができると楽しいと思います。

子どもたちの中では、読書紹介、読書郵便というのを委員会で取り組んでおまして、私に「校長先生これお勧めです」という郵便をくれる子もいますし、子ども同士でこれお薦めというのを委員会で取り組んでいるところです。

これは楽しんでやっておりますので、このまま継続させていただきたいと思えます。

### ○ 真嶋校長先生

中学校ですが、読書に関して非常に貴重な意見をありがとうございました。以前、いろいろな方法で朝読書というのをしておまして、いろいろなかたちで記録をとったりもしていました。みんなが何ページまで読んだみたいな感じだったので、いろいろな読書の考え方があって、感想を要求し過ぎると読みたくなるというような状況もありますので、読書感想文ではなくて、おっしゃったような帯などの紹介文形式の方が書きやすいということもあり、そちらへ動いている部分もあります。委員長が紹介したりすることはありますが、確かに子どもたちが紹介する部分、子どもたちが読んだ中でよさを紹介するのは、ぜひ委員長にも伝えながら、参考にさせていただければと思っています。

それから、フォーサイト手帳に関してですが、現在手書きのフォーサイト手帳を使っています。タブレットでのフォーサイト手帳もありますが、現状としては手書きで書くという大人が使っているような手帳的に持ち歩くかたちです。今までは朝から提出して、学校にいる間はずっと先生が感想をチェックして夕方まで返ってこないというかたちだったのですが、できるだけ簡単にチェックをして、子どもたちが、日常生活や授業中の気づきとか、メモすることがあるときに、ぱっと書けるよというように活用しているという状況です。

来年も今のところ手書きでそのまま継続しようと思っています。

それから集会等の表現に関しては、おっしゃるとおり苦手な子を無理やり出させてしゃべらせるというよりも、自分の考えを言ったり発表するのが当たり前の雰囲気

気をつくるというようなところでは、全校生徒の中でというのは大人でも難しい状況があるので、そこの中でもやはり、例えばリーダーである生徒会の執行部とか、委員長あたりには声をかけてから、こういう場面で自分の考えを表現できないといけないよということで指導しますし、苦手な子たちはクラスの中でできればいいし、班の中や、感想として書けるだけでもいいと思います。

ただ、当たり前で自分の考えを表現できるような機会とか、それを認めるような状況というのはぜひつくってあげたいかと思っているところで今取り組んでいるところです。

リーダー関係は先ほど述べたように、基本「ノー原稿」で人前でしゃべるようにと今指導しています。紙は持っていますけど、もし忘れても内容は誰も知らないからということで、自分の言葉でしゃべること、会長も原稿を読みながら話すということはしないで、自分で話すかたちをできるだけ今とらせているところです。

### ○ 石松委員

原稿無しでしゃべるのは難しいなと思いながら聞いておりました。

中学校に関しては、フォーサイト手帳も去年の始まった時からこういうのをやってみるととてもいいのではないかと私も思っておりました。先ほどお話にありました積極的に活用している生徒の割合が少し減っているというのが、どうしてなのかと感じました。

そして小学校では県立図書館の本をタブレットで読めるようになるということで、ちょうど私もこの間申込みをしたところだったので、なるほどと思ったところでした。

小学生の私の子どもがタブレットを持って帰って家でキーボード（タイピングソフト）とかタイピングの練習とかを頑張っているのですが、何か分からない時やちょっと困ったことがある時は、先生にすぐ連絡をして先生から返事が来るようになっているので、これもとてもいいなと思います。子どもが自分で電話をして小学校の先生に聞くというのは難しいと思いますが、タブレットで聞けるというのはとてもいいなと思いました。

そして、子どもが見ているものであったのが、小学校の各全部の子どもたちがイラストに文字とかを載せてプログラミングをしているのでしょうか、練習をしている何かを見ていてとても面白いと、何かかわいいイラストにいろんなコメントを載せて、それを流す。それを誰でも見られるようになっている。それについてのコメントも載せられるというのがあって、ちょっと説明が難しいですけど、すごいなと思いました。

また感想をコメントに載せられるということはいいことも書かれるし悪いことも書かれるのではないかという心配もあるかなと思っています。

### ○ 真嶋校長先生

フォーサイト手帳についての成果指標で、目標値が70%以上ということで、4月が73.0%、7月が67.5%と下がっている状況です。この活用のさせ方というのは一つ課題かと思います。上手に活用できる生徒と、なかなか書けない、メモ

を取ることが難しい生徒がいると思いますので、これを継続的に指導していくことが必要かなと思います。

ちょうど7月の成果を元に先生方に対策を考えてもらっています。フォーサイト手帳の活用状況が下がっているのが気になっている先生方が結構いるので、その辺りを踏まえて生徒会等と連携しながら、どのように活用していくかを考えていければと思います。下がっている1番の原因は、7年生が4月の段階で入学したてなので、使用方法を指導し、使っていく緊張感もあり、一生懸命していたけど、学校に慣れて書かなくなってきたのかなというところが、7年生のこの数字に現れているかなと思います。

有効に活用できると、社会に出てからかなり役立つ能力だと思いますので、ここを改善できるように取り組んでいきたいと思います。

### ○ 堺校長先生

タブレットの活用の中で、やはり1番大きな問題というのは、SNS等で自由に投稿した時に、いろいろな投稿が入ってくるっていうのはとても問題です。最近ではLINEやXそれからインスタグラム等を自分の端末で使っている子もいます。

ですので、それに関しては各家庭で見えていただくしかない状況です。しかし、その投稿が必要かどうかというのは、学校の中で練習させることができます。

ロイノートというツールがありますので、そこでどんなことを聞けばいいのか、これは今聞かないことなのか、何を全体に話すべきなのか、何を先生に話すべきなのかということを練習させることができます。

そういうことをさせながらやっていきたいと思っているのですが、本当にアプリケーションは日進月歩で、今学校ではキャンバというウェブサービスを使っています。これは、子どもたちが使うには保護者の承諾が必要です。高学年しか使っていませんが、中にAIが入っており、例えば、きれいな桜の絵が欲しいって言うと、AIが桜の絵を作ってくれる。そういうものが入っていて、それに対していろんな感想を入れたりするようになってきているので、本当にもう日進月歩です。子どもたちが別に画像を作らなくてもAIが作ってくれる時代になっているのです。そういうものの使い方もこれから学んでいかなければいけませんので、使うことを制限するのではなく、使わせながら学習させていきたいと思います。失敗するならば、その学校の中やクラスの中で失敗したほうが良いと思います。

やはり外の世界に出て、全然知らない人とトラブルになった時にどうしようもないと思います。しかし、クラスで何かあったら謝りに行く、こんなことを書き込まれたといった場合には保護者に謝罪することもできますし、そういう閉じられた範囲でのSNSのトレーニングを進めていくといいなと思っています。ただ始まったばかりですので、高学年の子はまだそういう経験が薄いですから、失敗する子もいるので、十分気をつけて使わせたいと思っています。

### ○ 渡邊町長

1点、今県立図書館においてタブレット等で本が無料で読めるようになったということで、実を言うと、私が町長になって2年目ぐらいに導入を進められていまし

た。小国町に図書館はありますが、小国町でデジタル図書館を開き、タブレット等で読書ができるように開設してはと言われたことがあります。

あの当時、確か2,500万円ぐらい費用がかかると言われていたと思います。

今話を聞きまして、無料の世の中が来るだろうとその当時は思っており、申し訳ないですがその話を見送りました。やはり大事なことは、少し時間が経過するとコストが凄く下がるというものがあります。

ただ、コストが下がる前にやらなければいけないところは町のほうでやらないといけませんし、少し待つというのを選択肢の一つとして持っていていただくと、子供のことだから全部実施するという訳にもいきませんので、町としても金銭面等いろいろ考えますが、時間が一番大事だと考えます。

ですので、いろいろ導入をする時に、今本当にやらなければいけないところを特に考えていただきたいと思っています。例えば台湾等の交流は今が一番のチャンスですので、これを失敗してしまうとなかなか次の機会がなくなります。熊本県でもTSMCが来ます。このような状況の中でどうやってグローバル化を先に準備するのかを考える必要があります。

以前から話がありますように、DXとグローバル化は今後進んでいきますので、どのように対応していくかは、できるだけ早いほうが良いと私は思っているところです。

ですので、順番的に前倒しのようなこともたくさんあるかもしれませんが、少し我慢が必要な部分も少し出てくるのかもしれないと思っておりますので、学校の中で予算を立て、事業の選択をする中で、町もしっかりと考えさせてもらいますので、教育委員の皆さん、監査委員のみなさんたちとと考えていただき、子どもたちのためにどのようにできるのかというところを考えていただきたいと思いながら、皆様からのご意見をお聞きしました。

閉 会

事務局：松本総務課審議員

会議に使用した資料一覧

1. 令和6年度年度第1回小国町総合教育会議次第
1. 令和6年度第1回小国町総合教育会議出席者名簿
1. 第2次小国町教育大綱
1. 小国町総合教育会議設置要綱
1. 説明資料（小国町教育長・小国中学校長・小国小学校長）